

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、高い学力と高邁な精神を培い、21世紀を担う有為な人材の育成をめざす。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献する、リーダーシップを取ることのできる人材の育成を図る。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。
- 4 地域の教育センター的役割を果たしうる、地域の期待と信頼に応える「開かれた学校」をめざす。

2 中期的目標

1 学力の向上と規範意識の醸成

(1) 進学を重視した規律ある学校として大阪を代表する全日制普通科単位制高校の確立

- ア 生徒のニーズの変化に対応し、進路目標の実現に向け常に適切にカリキュラムの研究と編成を行なう。
- イ 本校での学習活動のみで、難関国公立大学や国公立大学医学部医学科等への合格に必要な学力を育成する。
- ※ 27年度においてセンター試験受験率90%以上、国公立大学合格者現役30%以上をめざす。
- ※ 高い志を育て、進路希望第一志望達成率70%をめざす。

(2) 「規範なくして学力向上なし」の合い言葉で、安全で安心して学校生活に取り組める環境を確立するとともに維持・発展させる。また、人権意識豊かな人間形成に努める。

- ア 学習指導・生徒指導・進路指導等において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。
- ※ 27年度においても一日平均家庭学習時間を府下トップレベルにし、遅刻者数府下最少を維持する。

(3) 「使える英語プロジェクト」事業により、英語力の向上を図り TOEFL などに積極的に挑戦する生徒を育成する。

- ア 23年度より3年計画で1年より順次、学年全員のPre-TOEFL受検を実施し、24年度以降は1・2年で実施。今後も継続し、グローバル人材の育成を図る。高校で身に付けるべき英語の発展的レベルの単語や表現力を修得し、ディスカッション、ディベートでの運用をめざす。

(4) 特別活動や生徒会活動をととして、人間力やリーダーシップを育む。

2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 教職員の指導力向上をめざし、授業改善に努めるとともに生徒指導、進路指導面においても指導力の向上をめざす。

- ア 他府県先進校への教師派遣(年4名以上)。

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

- ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に、有効に対応できるようにその維持・改善に努める。また、教員がより多くの時間を生徒対応に使うことができるよう業務のスリム化を追求する。
- ※ 26年度をめどにICTの活用により、事務時間の削減と職員会議月1回の実現をめざす。

(3) 次代の学校経営の担い手になりうる教員の育成に努める。

3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入れたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」と地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。学校説明会参加者数の大幅増に努める。

(2) 地域の教育センター的役割を果たしうる、情報の発信に努め地域の信頼に応える。

- ア 槻の木 MANABI カフェの開催と充実(地域人材の活用)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 25 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ・「授業は全体としてわかりやすい」は81%と昨年に比べ22%高く、「自分で考えたり発表する機会がある」は61%と14%増加している。生徒が主体的に授業に取り組む姿勢を育てる機会をさらに増やし、授業内容や形態についてさらに工夫改善を重ねる必要がある。</p> <p>【生徒指導等】 ・規律を守った生活を送っているには95%が肯定的だが、先生は生徒の意見を聞いてくれる72%、悩みや相談に親身になって応じてくれる71%、気軽に相談できる教職員がいるは55%と昨年度に比べ増加しているがやや低い値であり、教員には、規範を守らせる姿勢とカウンセリングマインドの両面を持った指導が求められているとの認識が必要がある。 ・保護者の85%が学校の生徒指導の方針に共感できると回答、さらに理解をいただけるよう努めていく。</p> <p>【学校運営】 ・校内研修組織が確立、計画的に実施されている94%、実践に役立つ95%と教職員の資質向上については昨年を上回る肯定的意見が占めており、さらに若手教員に対する研修の充実が求められる。また、教職員の相互理解がなされ信頼関係があるが86%と4%増加しており維持したい。 ・学校は保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を設けている79%の肯定的回答をいただいているが、さらに発信力を強めたい。 ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる、肯定的回答は49%から66%に改善した。府教育委員会の協力をいただきさらに改善に努めたい。</p>	<p>【第1回(7/20)】槻の木の新たな”強み”を創造するために① ・校長の豪腕なリーダーシップから、組織としてのリーダーシップの発揮が通常化していることは、教員のフォロワーシップが機能し、組織人としての成熟があるから。 ・一番安定しているときがもっとも不安定であるということ。安定しているときに課題(不安定要素)を取り込むことが大事。 ・教科において「槻の木ミニマム」のように明確化し課題を共有することが重要。どんな内容をどこまで、どんな形でという3点をきっちり整理する必要がある。</p> <p>【第2回(12/7)】槻の木の新たな”強み”を創造するために② ・組織人としての「教師力」、「主体的な生徒の学び力」、「カリキュラム力」が必要。効率的に学力を身に付けるだけではなく、難しい課題に取り組ませるなどの試みも必要。自由度の高いカリキュラムを若手教員を中心に組織的に取り組むことが効果的。 ・若手教員の育成に関連して、塾では新人に対し組織課題を優先して教え込み、他者とのつながりや人の役に立つことを徹底的に身に付けさせている。槻の木が教科に軸を据えることは大事だが、今までの組織を大切にしてきたことは生かすべき。 ・勉強のこともクラブのことも、広い意味での生き方や家庭の問題など、先生と生徒が接点を意識的に多く持つよう工夫することが重要。</p> <p>【第3回(3/15)】槻の木の新たな”強み”を創造するために③ ・言語活動の充実という観点から、読書習慣を身につけることが重要。そのために、教員の推薦図書をうまく活用し、きっかけづくりにすればよいのではないかと。 ・労働観や人生観などを考えさせるため、社会人との対話の機会をもつことが重要。地域の方々や卒業生の協力も必要。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識の醸成	<p>(1) 学習意欲のさらなる向上とより高い志を育む</p> <p>(2) 規範意識のさらなる向上</p> <p>(3) 「使える英語プロジェクト」事業の活用による英語力の向上</p>	<p>ア・新学習指導要領の実施に伴い改善したカリキュラムの検証を進めるとともに、より生徒の変化に対応したカリキュラムの研究を継続する。</p> <p>イ・課題、予習、復習による家庭学習時間（校内での自習を含む）の増加と学習内容の充実に努める。</p> <p>ウ・自己肯定感を高め、より高い志をもって進路に挑戦するよう担任のみならず進路担当、教科担当等学校全体での教員の研修および生徒面談の充実を図る。</p> <p>エ・1年次での職業観、勤労観育成のための取り組みの充実を図るとともに、2年次、3年次での校内での大学個別説明会の充実を図る。</p> <p>ア・遅刻数のさらなる減少をめざす。 ・生徒の安全確保のため、自転車指導等交通安全週間などを設け、指導の充実を図る。 ・学年集会、各年行事などあらゆる機会をとおして時間遵守の徹底を図る。</p> <p>ア・Pre-TOFEL テスト1・2年受験 ・放課後の英語特別レッスンや姉妹校との国際交流等をとおして使える英語力の向上を図る</p>	<p>ア・選択者数などを参考に常に検証する。学校協議会からの評価をもらう。</p> <p>イ・24年度2年(2月)、平日79、休日119、平均5分の増を見込む。</p> <p>ウ・センター受験率の増加80%以上</p> <p>エ・大学招聘数、学校教育自己診断でのアンケート、面談回数4~5回、面談時間の増加。</p> <p>ア・学校教育自己診断、「規律を守った高校生活を送っている。」生徒92%以上(H24:92%)保護者97%以上(H24:97%) ・事故件数の減少(アンケート調査) ・開始時間の把握</p> <p>ア・377点以上、1年次25% 2年次397点以上25%以上</p>	<p>(1)ア、特別非常勤講師担当講座の適正化を図った。(○)</p> <p>イ、家庭学習時間の平日80分、休日120分ほどで推移。自習室の活用などによる確保が必要。(△)</p> <p>・センター受験率85.3%(◎)</p> <p>・進路指導に対する生徒の肯定的回答は89%(昨年比+5%) 保護者は88%(同+1%)(◎)</p> <p>・1・2年では懇談回数が昨年度比で5%増。(◎)</p> <p>(2)ア、「規律を守っている」に対する肯定的回答生徒95%、保護者96%。(◎)</p> <p>・事故件数は23%減少(12月現在の日本スポーツ振興C申請件数)(◎)</p> <p>・行事の時間厳守(◎)</p> <p>(3)ア、2年の397点以上は9%と目標を達できなかったが、1年次は0%であり、377点以上は16%から21%となり、着実に向上。(△)</p>
2 先進的で他をリードする学校づくり	<p>(1) 教員の指導力の向上</p> <p>(2) より組織的で効率的な協働体制の構築</p> <p>(3) 若手教員の育成</p>	<p>ア・各分掌による、教員研修の充実を図る。特に今年度は進路指導におけるスキルアップをめざす。 ・前期、後期各1回の授業アンケートのさらなる活用を図る。 ・他教育機関による教科力向上の支援をさらに進める。 ・先進校への教師派遣を勧め、さらに先進校の取り組みの導入を図る。 ・生徒指導においては、生徒の変化を良く見極め、個々に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上に努める。</p> <p>ア・ICTを活用し、教職員間の円滑な情報の伝達と共有を推進する。また、電子黒板を活用した授業の研究を実施する。</p> <p>ア・管理職、ベテラン教員による若手教員の校内研修を年5回以上実施する。</p>	<p>ア・研修回数、研修の満足度 ・生徒の授業満足度はH24前期、「はい」+「どちらかと言えばはい」87%であるが、授業内容が学力向上に役立っていると思うは64%、これを70% ・先進校への派遣4名以上。 ・「学校の生徒指導の方針に共感できる」H24以上(H2486%保護者)、地域からの苦情の減少。</p> <p>ア・ICTの活用による紙資料の削減、購入費用。 ・電子黒板利用の回数と効果の検証。</p> <p>ア・7回以上の実施。(H24、6回実施)</p>	<p>(1)ア、研修の計画的実施には教職員の94%が肯定的に回答。95%が教育実践に役立つと評価。授業アンケートを踏まえ、教科会議を実施し、教科ごと身に付けたい学力を整理した「can-doリスト」を作成。(◎)</p> <p>・5名を派遣予定。(◎)</p> <p>・学校の生徒指導の方針への肯定的回答保護者85%。指導方針の周知に心掛ける。(○)</p> <p>(2)ア、紙の使用は昨年度並。 ・ICT機器の授業活用は教職員の84%が肯定。電子黒板の活用は引き続き検討。(○)</p> <p>(3)ア、スキルアップ研修(校内)6回に加え他校への授業見学を実施。(◎)</p>
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入りたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」学校づくりの推進</p> <p>(2) 地域への情報発信と地域人材の活用</p>	<p>ア・進路、生活指導などで実績を積み、それを中学校、中学生・保護者、地域の方々にきめ細かく発信し、信頼にたる学校づくりを進める。 ・個人面談だけでなく学年懇談会、進路説明会などをできる限り多く開催し保護者の信頼をさらに得よう努める。 ・学校経営推進費を活用し、書道教室及び図書館の施設設備を整備し、生徒の学習環境の充実に努める。</p> <p>ア・槻の木 MANABI カフェの充実により生徒のキャリア教育も兼ね、地域の人材を活用し、地域の方に学校に来ていただき学校の活動に理解を頂くとともに、学校のもつ知的、人的資源を地域に還元する。 ・地域の小中学校、地域ボランティア団体との連携を強化し学校の持つ教育力を発信する。</p>	<p>ア・生徒「入ってよかった」75%以上(H24年度72%)、保護者「入れてよかった」80%以上(H24年度79%) ・学校行事に参加したことがある85%(H24:81%) ・学校は保護者・地域の意見を聞く機会を設けている。85%(H24:81%) ・施設設備の学習環境面で満足できる。50%以上(H24:49%)</p> <p>ア・MANABIカフェへの生徒、保護者地域の方の参加者数の増加及び満足度80%以上をめざす。 ・参加数、地域からの評価</p>	<p>(1)ア・「入ってよかった」77%、「入れて良かった」92%。(◎)</p> <p>・学校行事参加85%。(○)</p> <p>・保護者・地域からの意見聴取79%。(△)</p> <p>・施設設備の満足度66%(◎)</p> <p>(2)ア、MANABIカフェ(12月実施)の参加者数はこれまでの最大数となり、地域の方からの講師への質疑や生徒の積極的な発言もあり好評であった。今後も充実した内容、形態となるよう検討する。(◎)</p>